

# オフィスの



照屋正

人は普通に仕事をやっていれば生産性が毎年1〜2%上がるといわれます。パソコン操作の上達や仕事の要領の獲得などでスキルが年々向上するため、例えば、職場でそれまで3人でこなしていた仕事に2人でできるようになり、いずれ1人でこなせるようになります。

今、会社の売り上げが増えない状況が続いているとしましょう。一方で生産性は向上し続けているため、しだいに

労働力が余るようになりま

す。結果、新規採用の抑制やリストラが進んでしまい、最終的に社会に多くの失業が発生します。日本経済はこの20年間、ほとんど成長することができな

## 失業回避する経済成長

がずっと横ばいの状態です。にもかかわらず生産性は毎年上昇するため、失業者が増加し、たいへん厳しい雇用環境が続いてきました。

経済はこのように、成長し続けなければ失業を生んでしまう性格を持っています。ですから「成熟社会を迎え、もう経済成長を追求する時代は終わった。これからは心の豊かさを求める時代だ」という見方は、経済活動の視点からいえば適切ではありません。経済は常にパイを大きくし続け、それによって失業を回避しなければいけないのです。経済成長にはもう一つ、重要な役割があります。政府の財政収入を増やしてくれる点です。経済が成長すると企業と個人の所得が伸びるため税

収が増えます。これによって財政再建が進み、福祉や公共サービスの充実が図られます。

さて、沖縄県の完全失業率は、長い間7〜8%と厳しい水準が続きましたが、ようやく13年に5・8%と改善しました。新規学卒者の採用人数もだいぶ増えてきています。景気の回復で経済のパイが大きくなり、企業の雇用が前向きになつてきているのです。多くの人が安定した生活と仕事を得ることができるよう。これが経済運営の一番の目的です。経済成長は、それを実現する大事な役割を持っているのです。

(りゅうぎん総合研究所常務取締役)

次回は福井康夫氏(メディアフラッグ代表取締役社長)です。